

**SUTEKI LIFE**<sup>®</sup>

# キャリアを生かして セカンドステージを楽しむ



●撮影/CMS 丸谷裕一

写真左から

**山本洋三**さん (59歳/横浜市)

**中野富雄**さん (71歳/藤沢市)

**梶 文彦**さん (62歳/横浜市)

**村山勝彦**さん (64歳/横須賀市)

会員数60名を誇り、中小企業支援、高校生・大学生のキャリア教育支援などそれぞれのキャリアを生かした社会貢献活動をしている特定非営利活動法人(NPO)コアネットの皆さん。とくに神奈川県では、県立高校の生徒たちを対象に数種の出前授業を展開。学校の勉強とはまた違う新鮮な感動を与えている。コアネット理事の4人に伺った、子どもたちに伝えたいこととは!?



Vie Cent ● 座談会  
 素敵に生きる  
**SUTEKI LIFE**®

子どもたち一人ひとりの  
 成長を見守る喜び



梶 文彦さん  
(コア・イノベーション/東京社会福祉情報センター代表)



中野富雄さん  
(元日本電気株式会社代表/元関西日本電気株式会社代表)



村山勝彦さん  
(元関東自動車工業株式会社住宅事業部長)



山本洋三さん  
(高川工業株式会社代表/ネットワーク)

●NPOコアネット <http://www.core-net.org>  
(神奈川県事務所)  
 横浜市神奈川区白根上町47-34 TEL045-432-4955  
(事務局) 東京都品川区東五反田1-25-19  
 東横島津山南ハイツ1206号 TEL03-5475-3412

藤本 早速ですが、コアネットという組織について教えてください。  
 梶 NPOコアネット理事長である増島勝(元株式会社TDK専務取締役)から「元気も時間もお金もあるリタイアメントシニアたちを集めて、何か社会に役立つボランティア活動でもやらないか?」と相談されたのは、6年前のことでした。ちょうどその頃「大学生や高校生が、どこに就職していいかわからないという現状がある。学校で仕事の話をしてくれないか」という依頼がありました。ほくには定年はないが、周りには対象者はたくさんいる。それなら、と

5人のメンバーが集まって立ち上げたのが2000年5月。正式な発足は、その年の12月です。  
 藤本 6年間でメンバーが60人にもなったんですね。  
 梶 クチコミと新聞に取り上げられたことで、さまざまなキャリアの方が集まってくれました。リタイアした人だけでなく現役の方も。リタイア後は一切仕事から手を引いたという方もいれば、むしろ現役時代より忙しく、あちこちで活躍されている方も多いです。それでも皆さん、コアネットの活動はあくまでもボランティアとして関わってくださいたいるので、本当に感謝しています。  
 藤本 活動の目的は何ですか?  
 梶 産業界での豊富な経験で培ったノウハウや知識を、後進の育成に生かしたいという思いに尽きますね。

ヴィサン編集長  
**藤本 裕子**

(ふじもと ゆうこ)  
 株式会社トランタンネットワーク新設社代表  
 1956年福岡県出身、横浜市在住。16年間の報社の立ち上げをコンセプトに『月刊 主婦さん業界新聞』の発行ほかさまざまな子育て支援事業を展開。現在は対象を母親から「すべての人」へと広げ、新聞名称を「LIVE LIFE」に変更。2002年財団法人大阪市教育振興公社発行の教育情報誌「教育大図ビーボブリータ」編集長に就任。『ヴィサン』100号より編集長に就任。情報発信やネットワークづくりの傍ら、地域・教育・子育て・生きがいなどをテーマに講演活動中。 <http://www.30ans.com>







**藤本** 事業内容はどんなものですか。  
**梶** 1つは中小企業の支援。2つ目は自治体の事業評価。2005年度は神奈川県の実業評価プログラムに参加し、「自治総合研究センター研修事業」の事業評価に参加させていただきました。3つ目が学校でのキャリア教育支援です。

いとわられている中で、子どもたちに、常に動き続ける産業の姿や、実践的な仕事の魅力を知らせることは、とても重要なことだと思っています。そこで、ものづくりの体験授業や仕事についての講演などを通じ、職業意識を持たせ、産業の魅力を伝えることを目的としています。

**藤本** おひとりずつ、これまでのお仕事について、それから現在の楽しみなどを教えていただけますか。

**村山** トヨタ系の自動車関連会社で車両開発や新商品開発を中心にやってきましたが、最後は住宅事業も経験しました。リタイア後は中小企業の経営相談を引き受けたりもしていますが、家でのんびりする時間もできました。ものづくりの専門性を生かして家のリフォームをしたり、好きな写真を撮って現像を楽しんだりしています。

**中野** 電気メーカーで半導体の販売を中心にやってきました。自由人になり、コアネットのような社会活動に意義を感じています。テーマは無味乾燥人間をどうやって脱皮するか。趣味は読書、歴史、俳句、ゴルフ、魚釣りとお食事です。

**山本** 本業は代々続く金型業ですが、比較的早い時代にITを導入して電

子化を進め、その関係もあって、パソコンを一から学びました。インターネットのネットワーク管理者を長く続けていて、法律関係に詳しくなっていました。今もIT関係の仕事が多いですね。

**梶** 生産管理技術のコンサルティングと出版・編集など制作プロダクションが本業です。コアネットの活動も徐々に成果があらわれ、ますます力を入れたところです。メンバーの層が厚く、それぞれがしっかり仕事をしてくれそうですので、事務局は提案して企画するだけ。趣味では20年来「そば」一筋。そば打ちをはじめ食べ歩きとHP発信で、こちらも大勢の仲間と楽しくやっています。

**藤本** 皆さんお忙しい中で、コアネットの活動をされているんですね。具体的な活動を教えてください。

**梶** 高校の総合学習などで、授業を任されてやっています。技術系のワークショップや編集講座、起業講座、職業講話など、それぞれのメンバーの得意に任せ役割分担をしています。

**村山** 大森野高校では動かなくなつたバイクのエンジンを教室に持ち込み、分解して再生し、エンジンをかける。最後はみんなで乗って、安全講習までを体験してもらいました。

**藤本** 生徒たちの反応はどうですか。  
**村山** 最初は油や排気ガスで汚れたバイクを遠巻きに見ていた高校生も徐々に目の色が変わり、最後にエンジンがかかった瞬間は、目をキラキラさせて声を上げます。

**藤本** 工業高校でもないのに？  
**村山** 中古のバイクは地元のおトバイ屋さんを用意していただくなど、地域の連携も大切です。ピスのしめ方や工具の扱い方を知らない子どもたちが、一つひとつ工程を踏みながら学習していきます。ものづくりの創意工夫だけでなく、機材の運搬や後始末を積極的にやる姿、昔の前で堂々と発表する姿など、目に見える成長にこちらも胸が熱くなります。

**山本** 高浜高校でコディネットした「ロボカップサッカー」も、同じものづくり系のワークショップです。ロボットの頭脳はパソコンを駆使してプログラミング。完成したロボット同士がサッカー試合を楽しむまで、半年の時間をかけて行います。

**藤本** 子どもたちはコンピュータの扱いはお手の物ではないですか。  
**山本** プログラムづくりが得意な子もいれば、手先が器用で細かい作業が得意な子もいる。中にはやすりかけが抜群にうまい子もいたりして、



# 大切なのは職種ではなく、 どういう人になりたいか

それぞれの個性が見えてきます。何かにつけ細かな点をほめるようにしているのが、皆それぞれに自信をつけ、楽しさを見出していきます。

**藤本** 均一化されてしまいがちな教育現場では、子どもたちの個性を發揮できる場は少ないでしょうからね。**梶** 学校はどうしても知識が先行しがちですが、手作業ベースの体験だから面白い。生徒の取り組み姿勢が違います。しかも集団でひとつのものを完成させていくという過程では、相談したり協力したりというコミュ

ニケーションが知らずに起こります。

**村山** 今の教育システムではどこかを基準にボーダーを引き、できる、できないと区別しがちです。だから

こそ、できない子をあきらめるのではなく、着実に結果まで導いていきたいと思っています。

**藤本** 子どもたちにしたなら、達成感を味わう喜びが大きいのでしょうか。

**村山** 物事を観察する力も養われ、たくさんの方がいて社会が成り立っていることを知ります。

**中野** ほくは、まず「今朝何を食べてきたの？」という話をします。野菜にしても牛乳にしても、食卓に並ぶまでにはさまざまな職業の人々が

関わっています。我々はたくさんの人に支えられて生きていて、どんな仕事も素晴らしいということを理解してもらおう。子どもたちには、サクセスストーリーよりも失敗談のほうが受ける。ほくも浪人したことや左遷されたことを話して、先生ではなく「フツのおじさん」なんだとい



「ここを、はら、こうすると…」工作授業中の川崎市立雲小学校の児童と梶さん



「漢人2回、左遷4回…、失敗はこわくない」。横浜市立橋本商業高校で講義中の中野さん

うことをわかってもらうんです。

**梶** 子どもたちの無気力・無関心・無感動がいわれています。確かに

その通り。挨拶やマナーもなっていない姿を見ると、一社会人として責任を感じます。現代は大人たちの価値観も多様化し、家庭と学校の連携にも難しさがあります。社会のしわ寄せがすべて子どもたちについてしまっている状況に「生徒たちを、このままの状態に社会に出してはかわ

いそう」という気がしてなりません。**藤本** 気づいた大人たちで少しでも何とかしたいというお気持ちですね。

**山本** 昔と違って、コンビニエンスストアに券売機、交番にもおまわりさんすらいない世の中です。人に出会う空間がないこと自体が問題です。

**中野** そういう意味では、学校の先生も責任は大きいのでしょうか、先

生も「学校」という限られた中にかいがないのだから大変だと思います。

**村山** 早くから英語を導入することではなく、使える英語を学ぶことが大事だし、もっといえば、何のために英語を使うかが大切です。

**山本** たとえばエアコンのプログラムにしても、コンピュータにいくら詳しくても、心地よさとはどんなものかをイメージできなければ、プログラムはつくれません。つまり、心を感じる事ができない人にはITの仕事はできないということですね。

**藤本** 子どもたちに、そんなことを話してくれる大人はなかなかいません。素晴らしいことだと思えます。

**山本** 一方ではケータイメールで、「誰が書いたんだ？」というようにとても素晴らしい文章を書く子もいる。

**中野** リアルに人につきあうことが

素敵に生きる  
**SUTEKI LIFE** ⑤



なくても何とか生きていける時代。だからこそ、伝えることがあります。

**堀** 出前授業で生徒たちとふれあうと、みんな次第に熱くなっていくのがわかるんです。約20人程度の生徒に講師が4人。いろんなタイプの人がいるので、誰かの一言にきっかけを見出し、「そっういえばあんなこと言ってたおじさんがいたな」と思い返してもうえたらうれしいですね。

**村山** 社会の一片を知り、そこから果てしなく夢は広がっていく。

**堀** 大切なのは職種ではなく、その人自身であるということです。どんな仕事も本人の気持ち次第。つまり、そういう人になりたいか、どんな生き方をしたいかで決まるんだと。

**中野** 利益追求という命題はあるにせよ、すべての仕事は社会のためであるわけです。そして、それが自分

の人生をより豊かなものにしていく。そんなことを子どもたちに伝えていきたいですね。

**藤本** では元気の秘訣と、改めてこれからの夢について教えてください。山本 インターネットで知り合った若者たちと接していることでしょうか。今も地方政治、インターネット、法律問題などに関わっており、これからもその世界は広がっていきそうです。

**村山** 快食快眠。心がけているのは、何事も集中して取り組むこと。集中することで過度に疲れ、食欲が増し、よく眠れます。今後は、ビジネスで得た経験やノウハウをコンサルティング、特に人材育成などに生かしていけたらと思います。学校教育は素人ですが、高校生の体験学習や大学におけるキャリアデザインの授業な

どを続けていけたらと思っています。

**中野** 企業戦士の垢を落とし、社会に恩返しすることを生きがいとしています。背広、ネクタイはやめて余生を楽しむため、知的好奇心の向上と刺激を求めてNPO活動ほか、大学のキャリア教育への参加、講演会や読書の時間を増やしています。気をつけているのは、パーティーでは座らない、階段は自分の足で歩くこと。とにかく元気で人生を楽しみたいですね。

**堀** 続けているのは毎日の散歩。周開3キロ圏を歩いています。若くいるコツは「面白がり」でしょうか。何かあると腰を浮かすことをモットーとしています。今後はコアネットの活動を広げ、さらに活性化させていきたい。「寝る、食う、仕事する」以外の時間がないことをあきれながらも、「幸せ者」と見守ってくれる家族に感謝しつつですね。

**藤本** リタイアメントシニアの生き方が問われている今、皆さんのように新たな生きがいを見つけることが、健康のキーワードなのかもしれません。これまでのキャリアを次世代へ生かしつつ、それぞれが自分らしく、充実した生き方ができれば最高ですね。今日はありがとうございました。

## 座談会を終えて

対談後に、コアネットのそば打ち同好会恒例の「そば打ちの会」があると聞き、早速おじゃましました。50歳にして初体験のそば打ち。自分で打ったそばの美味しいこと、美味しいこと！ それにしても皆さん、本当にいいお顔をされていました！

(藤本裕子)



うー、この手触り！そばの香りがたまりません！



これぞ親さんゆりの手さばき。職人技！将来はそば屋の主人？



そばをつくる中でメンバーの皆さんは持ち寄りパーティー。中野さんのしめそばは最高においしかった。親さんが2日間お込んだ煮物もグッド！左は、そばつくりの師匠と呼ばれる笠川哲さん。



「サッカーロボット組み立てプログラム」で、高浜高校の生徒と山本さん



「中古バイクの分解・再生プログラム」で、大栗野高校の生徒と村山さん